

—— 受けた恩を
送り伝えていく

芳村 きょうは、明日の日本を背負って立つお二人の傑物に会えるのが楽しみです。お二人の本を読ませてもらったけれども、命に迫ってくるようなエネルギーがガッツと伝わってきて、もう感動の連続でした。お二人ともこの頃めつたに見かけないような痛快無比の快男児ですよ。

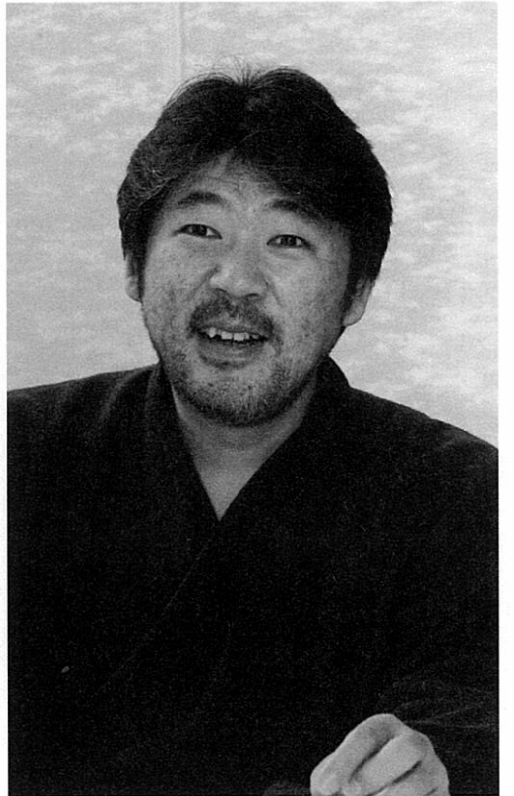
中村さんとは既に面識があるけど、これも不思議なご縁でした。

中村 まったくです。最初近鉄特急で同じ車両に乗り合わせて、しばらくして今度は新幹線で席が隣同士になつて。でもそのおかげでいまの活動につながる貴重なヒントをいただきました。

芳村 いまは中村さんとてんつくマンさんとそれぞれに、引きこもりやニートの子たちを集めて、農業をやっているんですね。

中村 はい。「耕せ！ にっぽん！」というプロジェクトで、僕は北海道と沖縄で、そしててんつくマンは小豆島でやっています。

僕は地元三重県でレストランやウエディング事業を営む一方で、多くの方から頼まれて全国で講演をさせていただいています。その話の内容が引きこ



クロフネカンパニー社長

中村文昭

なかむら・ふみあき 昭和44年三重県生まれ。高校卒業後に上京。野菜・果物の行商、飲食店の経営を経て、平成2年独立。地元三重県でショットバー「クロフネ」を開店。5年有限会社クロフネカンパニー設立。8年プライダ事業開始。著書に『お金でなく、人の縁ででっかく生きろ』『出会いを生かせば、フワッと道は開ける』『非常識力』などがある。



映画監督・路上詩人

てんつくマン

てんつくまん 本名・軌保博光。昭和43年兵庫県生まれ。63年吉本興業にてお笑いコンビを結成するが、平成6年同社を退職し映画製作を志す。路上詩人として活動しながら資金を集め、15年映画『107+1』天国はつくるもの』を製作し、いまなおロングラン上映中。現在、環境問題や海外支援など多方面で活動しつつ、次回作の映画製作に取り組む。著書に『天国はつくるもの』『感動無き続く人生に興味なし』『そばにいるから』『おきもちとどきました』などがある。

もりやニートの子たちの間でも評判になつて、たくさんの方との縁ができました。そんな折にてんつくマンと知り合つて、日本の農業や環境問題に関心を持つようになったんです。農業の担い手がないことや、日本の食料自給率の低さが気になって、若者たちと農業を結びつけて何かできないかと二人であれこれ考えている時に、芳村先生と新幹線でバッタリ出会ったんです。てんつくマン(以下「てん」)すごい偶然。

中村 そこで先生からいろんな話を伺う中で、農業の意味についても話が進んで、それ使えるなど閃いたんです。芳村 農に携わるということは、人間の創造した文化の根源を体験することでもあります。大自然、大宇宙に触れる体験があつて初めて命という活力が出てきて、どう生きたらいいのかという答えもそこから湧いてくると思うんです。だから、引きこもりやニートの子たちと農業を結びつけるという考えには大賛成でした。

中村 僕自身は引きこもりではありませんでしたが、かつてはニートに限らず、近く近い状態でした。自分が何をやっていいのかわからなくて、無気力な諦めモードで生きていたんです。

この世を皆で 天国にする

まずは、半径三層を変えてみよう。そこから、世界が変わっていく。こんなメッセージを載せた新聞号外が、有志により、いま日本中で三千万部も配られている。仕掛け人はてんつくマン氏と中村文昭氏。閉塞感高まる日本社会に、一石を投じようとする二人の活動に共感する哲学者・芳村思風氏を交え、日本の運命を切りひらくため一人ひとりがなすべきことについて、語り合っていた。



哲学者

芳村思風

よしむら・しゅう 昭和17年奈良県生まれ。学習院大学大学院哲学博士課程を中退し、思風庵哲学研究所を設立。感性論哲学の創始者。現在、同研究所所長。名城大学講師。著書に『人間の格』『人間の革新』などがある。